

# 第4回「文芸思潮」新人賞 中間発表

●第4回「文芸思潮」新人賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで総数三八編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る四月三〇日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。

無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

- 「ある現実―散文詩風な小説」 成瀬十八
- ◎「自然発火」 小山鬼
- ◎「匿名記者アカウント」 萌乃ポトス
- ◎「黙れ」 南崎理沙
- ◎「Duplicate」 和泉 真
- ◎「承認」 さんし
- 「ある話」 田中ちよ
- 「破廉恥なバレンキマ」 書類番号840
- ◎「なくのは女のないものねだり」 藤本亜香莉
- ◎「歌詠」 羽前鈴羊
- 「Last Cigarette」 グミガスキー
- 「私のオルフェウス」 桜田光辰
- 「てんさいな英雄」 新山健介
- 「閃光」 鈴木希寿
- 「あらゆる存在と喪失（たけのこを添えて）」 海老沢優
- 「石榴の木」 水埜 周
- 「夜は永遠に」 岡田 曉
- ◎「幽隠の終わり」 中山喬章
- ◎「今日は生きます、でも明日は死にます」 加藤 拓
- ◎「エディ」 宮下 空
- ◎「天使と成りても」 深舟芽子
- 「ひだりぼっち」 山本 襄
- ◎「瑠々々」 米井暢成
- 「催眠パーティー」 白田イチジク
- 「耳鳴りと暗騒音」 川島雄司
- ◎「遙かなる旅路」 金子光輝
- ◎「手紙屋」 大吹紫音
- ◎「ホワイト・ライ」 小幡洗貴
- ◎「不可逆の後悔史」 宇部道路
- ◎「蝸螂」 似内
- 「ふと、足もとを見下ろして」 ひつじ渚
- ◎「虚の顔」 蒼黄 緑
- ◎「圭と凜」 河埜喜一
- ◎「ディアスポラ」 樋口リョウ
- 「スタンダップ東風平」 儀保佑輔
- 「死病」 橋本一馬

## ■応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考について

「文芸思潮」銀華文学賞・新人賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に伝わる文章になっているかどうかが最も要の基準点となります。また書く姿勢を加味させていただきます。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢が曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありませんが、したがって、応募者全員が一次予選合格ということもありません。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かが感じられるもの、光るものが選ばれます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。一行でもいい、一人の人物に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなるという、一つの魅力を持つているかどうかのポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、ほぼ雑誌に載ってもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさんさんの作品が三次予選、さらにはその上に選出される可能性もあります。

どうかこれらの点を御了解くださいますようお願い申し上げます。

またご自身の文章力が具体的にどれくらいレベルか、文章力検定も併せてご利用いただけましたら、文章技量向上の一つの目安になると思います。

（銀華文学賞・新人賞選考委員会）